准教授　**山本　潤**　YAMAMOTO, Jun

1. 略歴

1995 年 4 月	東京大学文科Ⅲ類入学
1999 年 3 月	東京大学文学部言語文化学科ドイツ語ドイツ文学専修課程卒業
1999 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野修士課程入学
2001 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野修士課程修了
2001 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野博士課程進学
2003 年 10 月	ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてルートヴィヒ・マクシミリアン大学（ドイツ・ミュンヘン）に留学（～2006 年 3 月）
2009 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野博士課程単位取得満期退学
2010 年 4 月	博士（文学）取得（東京大学大学院人文社会系研究科）
2011 年 4 月	首都大学東京都市教養学部　准教授
2018 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科　准教授（現職）

2. 主な研究活動

a 専門分野

ドイツ中世文学

b 研究課題

口伝の英雄詩を素材とし、ドイツ語圏俗語文芸の初の興隆期とされる 12 世紀末から 13 世紀前半にかけて詩作された叙事文学を主たる研究対象としている。声の文化の領域における記憶伝承を担っていた英雄詩の英雄叙事詩化による記憶の変容の問題を出発点に、匿名性を基本とする英雄詩／英雄叙事詩の語り手の問題や（科研費若手研究「メディアの転換と記憶の変容―中世英雄叙事文学を対象に―」、2012～14 年度）、英雄叙事詩の歴史性の問題（同「作者性の諸相―中世ドイツ英雄叙事詩における歴史性と虚構性の問題」、2016～19 年度）に取り組んできた。また、中世文芸のアクチュアリティの問題も考察の射程に入れ、現在中世後期における英雄叙事詩の変容をはじめ、近代以降の中世文芸受容史を主たる研究対象としている。

c 概要と自己評価

2020 年度には西洋中世学会第 12 回大会シンポジウム「中世の感情」にパネリストとして登壇し、近年中世史研究において注目を集めている感情史の視点から、ドイツ語圏中世宮廷叙事詩および英雄叙事詩における感情表現に関しての考察を行った。2021 年度には西洋中世史や西洋美術史の研究者と協同で公開セミナーを行った他、シンポジウム「東西中世における修道院・寺社の書物文化―制作・教育・世界観の変容」において、パネリストとして口頭発表を行った。これらの研究活動を通して、学際的な視野を広げることができたものと考えている。同発表ではゲルマン民族にとっての「英雄時代」以来の英雄伝承の、中世盛期という時代における受容の様相の一端を明らかにすることを試みた。これは 2020 年度から取り組んでいる科研費プロジェクト「ドイツ英雄詩の受容史研究―英雄詩素材の歴史的アクチュアリティ」（基盤 C, 2023 年度まで）の一部をなすものである。現在、上述の口頭発表を論文として公表するための作業を行っている。

d 主要業績

(1) 著書

［共著］『ドイツ文化事典』、石田勇治他編、丸善出版、2020.10

(2) 学会発表

国内、山本潤、「「怒り」と「敵意」―中世叙事文学に見る感情の表象するもの」、西洋中世学会第 12 回大会シンポジウム「中世の感情」、オンライン、2020.10.4

国内、山本潤、「中世俗語文芸における「水を灌ぐ」行為―ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』を題材に」、ReMo 研公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」、オンライン、2021.10.30

国内、山本潤、「ドイツ語圏英雄伝承の教化素材化―ニーベルンゲン伝説およびディートリヒ伝説を題材に」、ReMo 研シンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化―制作・教育・世界観の変容」、東京都立大学、2021.12.19

3.　主な社会活動

⑴　他機関での講義等

非常勤講師、首都大学東京／東京都立大学、「ドイツ語学特殊講義」

非常勤講師、お茶の水女子大学、「ヨーロッパ言語文化論」

⑵　学会

国内、日本独文学会、企画理事、2019.6～2021.5、機関誌常任理事、2021. 6～

国内、西洋中世学会、常任委員、2019. 12～

⑶　学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

DAAD 友の会、理事、2019.9～